

大角先生の授業風景の思い出

2021年2月20日

太田隆次

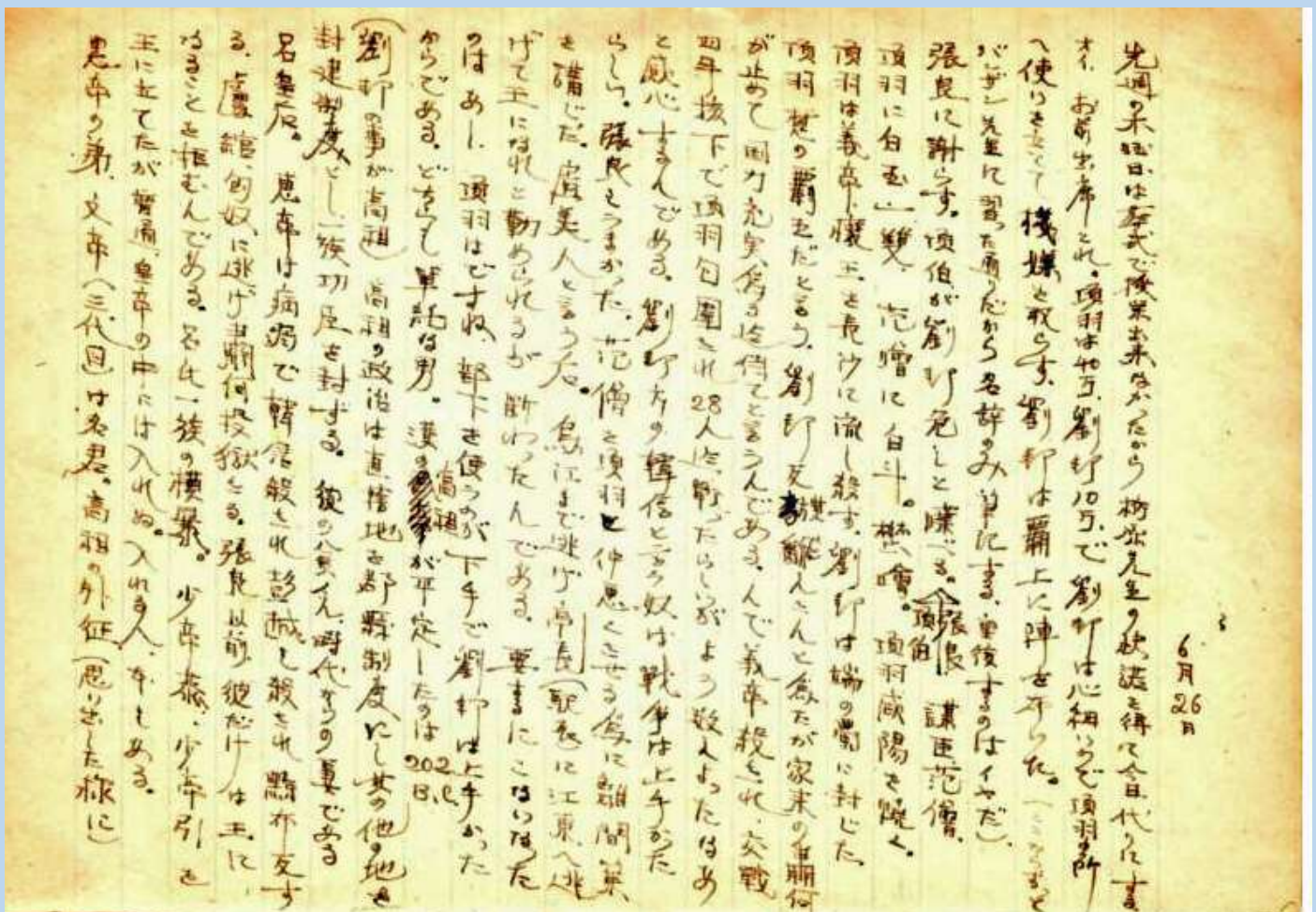
説き来たり 説き去り 私達を魅了した大角先生の授業

2月28日は高津高校時代の諸先生方の思い出がテーマになっています。このたび額田さんが紙上参加で懐かしい思い出を寄せて下さいました。どの先生も授業以外の思い出も一杯ですね。皆さん、思いきり語り合いましょ。

私は大角先生が全身全霊で私達にすべてを話しかけて下さる先生の姿にいつも心を打たれていました。冗談を含めて一言一句をノートに書き留めていました。文字通り口角泡を飛ばして私達生徒の成長に向き合ってくれた大角先生でした。先生の唾が自分の机の上に飛んできたこともあります。まさに熱血先生でした。

録音や写真があるわけではなく、幸い記録したノートは全部残っているのですが、一部、そのままコピーしました。16歳の少年が書いた字なので読み難い字や書き間違いもありますがお許し下さい。

今でも熱弁をふるう先生の姿が目には浮かびます。



と物も言わぬ。日本でもドイツでもソビエトでも同じこと。
よふから秦の始皇帝が車軌政治をするには、これはせんならん
ということを知ってもらいたいのである。今日から見れば、悪いといふこと
當時としては止むを得なかった政策で、これは決して第一に努力した
んてすね。では今日はここまで………

秦の始皇帝

四月十六日 (上機嫌である。さうは満ちると上
つたか?)

(君はいつも一省三ツ(生)とるが)

中口はさうも今は今も封建制であったらうです。人民は絶えず
いぢめられまゐる。中口では人を殺したりするは、さういふ前
めるとされまゐる。こりやめ、あまういさすしく馬りである。(笑)

よれでエー、今日は更にさうやう現代の中口をさういふ迄永く
つらう長城は、燕、趙、魏、秦が異民族と口境と接する各國にて
長城を造った。始皇帝が増築して、彼等を作らんとは無い。

甘肅方面は、漢人は死んで、五胡を積んで居るを、さうい
程間接的である。これもさういふ、第一胡にしろと馬四頭を横に
下下いふなり。横に列べて、通水する人である。十分は異民族と防衛
である。日中でもさういふ、元府の所、傳多、石壁も石を横に
重ねたさういふもので、これでも十分防衛に合ふ。現代の長城は、明代に修
築したもので、さういふ始皇帝のものは、北方に居る匈奴である。

大伴、中日人は、土木工事に慣れて居る人である。今次戦時中、